

# 別府三分の計

## ～温泉・港・レトロなまち並みが合わさる～

新しいまちづくりというテーマにおいて、私はまず自分の住んでいるまちについて考えてみた。自分の住むまちを改めて見直すと、改善すべき点がいくつもあることが分かった。私は、自分の住むまちの特性を活かすまちづくりを提案する。

私の住んでいる大分県別府市は、古くから温泉のまちとして知られており、その数・湧水量ともに日本一を誇っている。昔からその温泉を活かした観光業が発展し、観光のまちとしてその名を響かせてきた。しかし近年、別府市のすぐ隣にある湯布院町が地域住民の参加した「生活観光」という新しいまちづくりを行い、その結果、湯布院は大きく発展し観光客も年々増加している。そのため、温泉のイメージが湯布院のほうへ移ってしまい、別府にやってくる観光客は減ってきている。このままでは別府の未来が危ないと考えた私は、別府市が観光のまちとして再び栄えるために次のことを提案する。

別府市全体を特徴ごとに、別府駅から北側、JR線より山側、日出町から別大国道に至るまでの海岸、別府駅の南側一体、この三つに分割し、それぞれを区別することにより、メリハリのあるすっきりしたまちが出来るのではないだろうか。具体的に、以下に述べる。

### 旅の疲れを癒す「温泉」・・・(別府駅から北側、JR線より山側部分)

別府は温泉の他にもう一つ、海に面しているという大きな利点がある。温泉につかりながら海を眺める。観光客は開放感に包まれ、旅の疲れも癒えることであろう。しかし、温泉と海の間建物があったのでは、開放感を感じようにも感じる事が出来ない。幸いなことに、別府はまち全体が斜面になっており、ある程度建物の高さを制限することによって、どの場所からでも海を眺めることが出来るようになる。

さらに、この「温泉」の部分は、九州横断道路と国道10号線を軸に、京都駅周辺のような碁盤の目のように、道を整備する。別府は全体的に道が入り組んで複雑になっており、道に迷う観光客も多い。道路を整備することにより、統一されたすっきりとしたまちに変わるだろう。

### 海岸といえば「港」「砂浜」・・・(日出町から別大国道に至るまでの海岸)

別府市の観光港には関西汽船があり、別府 - 大阪間をフェリーで往復できる。この観光港を新しく造り変えることによって、関西地方からフェリーでやってくる人や、港を見にやってくる人が増えるのではないかと考えた。まず、船着場のすぐそばに人がたくさん集

まれるような広場をつくる。さらに、今の海岸は無数のテトラポットが並んでおり美観を損ねるばかりか、人が集まる場所ではない。そこで、港の広場を基点に、南北へ海に沿って遊歩道にし、カップルや老人、ジョギングをする人など、人々が集う場として活用する。そして、別府市では年二回、夏と冬に花火大会が行われており、有名なアーティストがゲストとしてやってくる。そのときの会場として、港の広場を使用するのだ。亀川から別府タワーまでの5、6キロに及ぶ遊歩道は、ムードが高まるような造りになっており、たくさんの人が花火を楽しむことができるだろう。

#### 昔ながらの味のある路地裏のまちなみ

別府駅の南側は昔ながらのまちなみでその景観は見る人の心を和ませ楽しませてくれる。この地域は私が通っている学校の研究室でも「別府の路地裏の魅力」として取り上げられており、調査が進められている。この場所は、昔ながらの別府の風景を映し出しており歴史を感じることもできる場所なので、このままの姿で残しておきたいと思う。

以上が、私の考えた別府の新しいまちである。

年々、高齢化が進む日本だが、それに伴って、温泉の需要も増えていくことだろう。つまりこれから、観光には温泉が不可欠だという時代が来るのである。別府がまた、観光のまちとしてその地位を取り戻せるよう、私は願っています。

#### <参考文献>

社会法人 日本観光協会 『観光地づくりの手法』